

# 常任委員会活動報告

## 産業経済

### 降電による農作物被害を調査

- 1 調査事項 8月6日発生の農作物降電被害状況現地視察
- 2 調査日時 平成19年8月9日(木)午前9時から11時45分まで
- 3 調査場所 奥州市江刺区
- 4 被害状況

(藤里字平場地区)

旧江刺市の官公造林であった土地を昭和59年の団体営農地開発事業で開畑したところである。りんご植え付け面積15ha。品種割合は、つがる25%、ジョナ30%弱、フジ40%弱、王林ほか5%弱。標高320mで



藤里りんご園での降電被害調査（江刺区）

寒暖の差が大きいため品質の評価が高く、昨年の初値で60万円を記録したりんご園であり、「ブランド江刺りんご」の代表的存在であります。

8月6日、14時10分から14時30分の20分間3〜4cm程度の大きさの雹が降ったのである。降電被害面積は15ha、葉が破れ果実に押し傷や引つかり傷が付き被害割合は7〜8割に及ぶ状況である。

農協等の指導で傷がついた枝葉や果実の消毒のため薬剤散布を実施している。救いは、枝が傷んでおらず、大事なところはしっかりとしているので来年の収穫には大きな影響が出ないと思われる様である。

- (2) 水稲及び大豆・トマト等の野菜被害

(田原字蒲道沢地区)

8月6日、14時10分から14時30分にかけて3〜4cm程度の大きさの降電があった。水稲約15・8ha、大豆約3ha、露地栽培トマト0・54ha、露地ピーマン6a、キュウリ28aが被害を受けた。

被害状況は、水稲は出穂したばかりの稲が目視で3〜4割折れている。大豆は葉や茎が目視で5〜6割折れていて収穫量の予想は不明。トマトは実と茎に1〜2割程度に傷がつき葉が破れているが、加工用のトマトが多いため出荷は可能である。ピーマン、キュウリは1〜2割程度、傷の被害があった。今年6月には、市内に降電被害が発生しており、今後異常気象による、農作物等への被害が出ないことを祈念するものであります。

## 教育

### 東北油化の臭気被害対策を徹底調査

この降電被害への市の対応は、①農業者融資事業経費として、降ひよう被害対策特別資金利子補給7万5千円、②農業振興事業経費として、降ひよう被害対策事業補助金76万6千円の補正予算が措置されました。

9月議会の教育民生常任委員会は5つの請願、陳情が付託になり、又会期中に台風9号や、大雨被害が当奥州市を直撃したこともあり、2日にわたり議会を午前中で切り上げ、被害地の視察など行った為、日程的に会期を延長してもらうことも考えましたが、9月3日、4日、5日、6日、14日、19日に委員会を開催し、委員各位のご協力もと無事審査を終えることができました。特にも請願29号(株)東北油化の臭気被害対策の抜本的な改善策についての請願では、現地調査を行い、また東北油化の代表者を参考人として、請願審査に出席いただきました。さらに岩手県地方振興局環境課、畜産課、保険所からも担当者に来ていただき、勉強会という形で悪臭などの公害について意見交換をして審査に当たりました。委員会に参考人をお呼びしての審査は本来議会に許された制度ですので、今後必要などときには意見を聞きながら、慎重審査をして住民・市民の付託に応えたいと思います。